

第153回エイズ動向委員会

委員長コメント

《平成30年 年間報告（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成30年1月1日～平成30年12月31日までの約1年
2. 新規HIV感染者報告数は940件で過去13位
3. 新規AIDS患者報告数は377件で過去14位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,317件で過去13位

【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが670件（全HIV感染者報告数の約71%）
 - 異性間性的接触によるものが157件（全HIV感染者報告数の約17%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが205件（全AIDS患者報告数の約54%）
 - 異性間性的接触によるものが89件（全AIDS患者報告数の約24%）
 - 静注薬物によるものは2件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に40歳以上が多い。

【検査・相談件数の概況（平成30年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は130,759件で過去10位
2. 保健所等における相談件数（確定値）は127,830件で過去19位

《まとめ》

1. 平成30年の新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は、平成29年より減少しており、2年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが7割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性者件数は昨年と比べて減少した。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用していただきたい。
4. 新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は、約3割のまま推移している。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した可能性がある者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、重要となる。国民の皆様には、性感染症を含め、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。